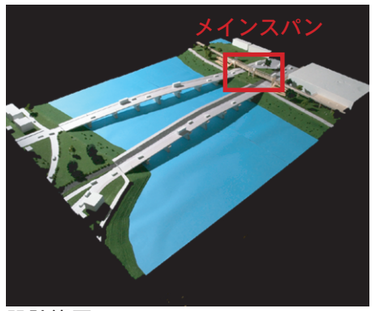
橋梁のデザイン

Wood-Project

学籍番号　1031016

氏　　名　田中　孝恒



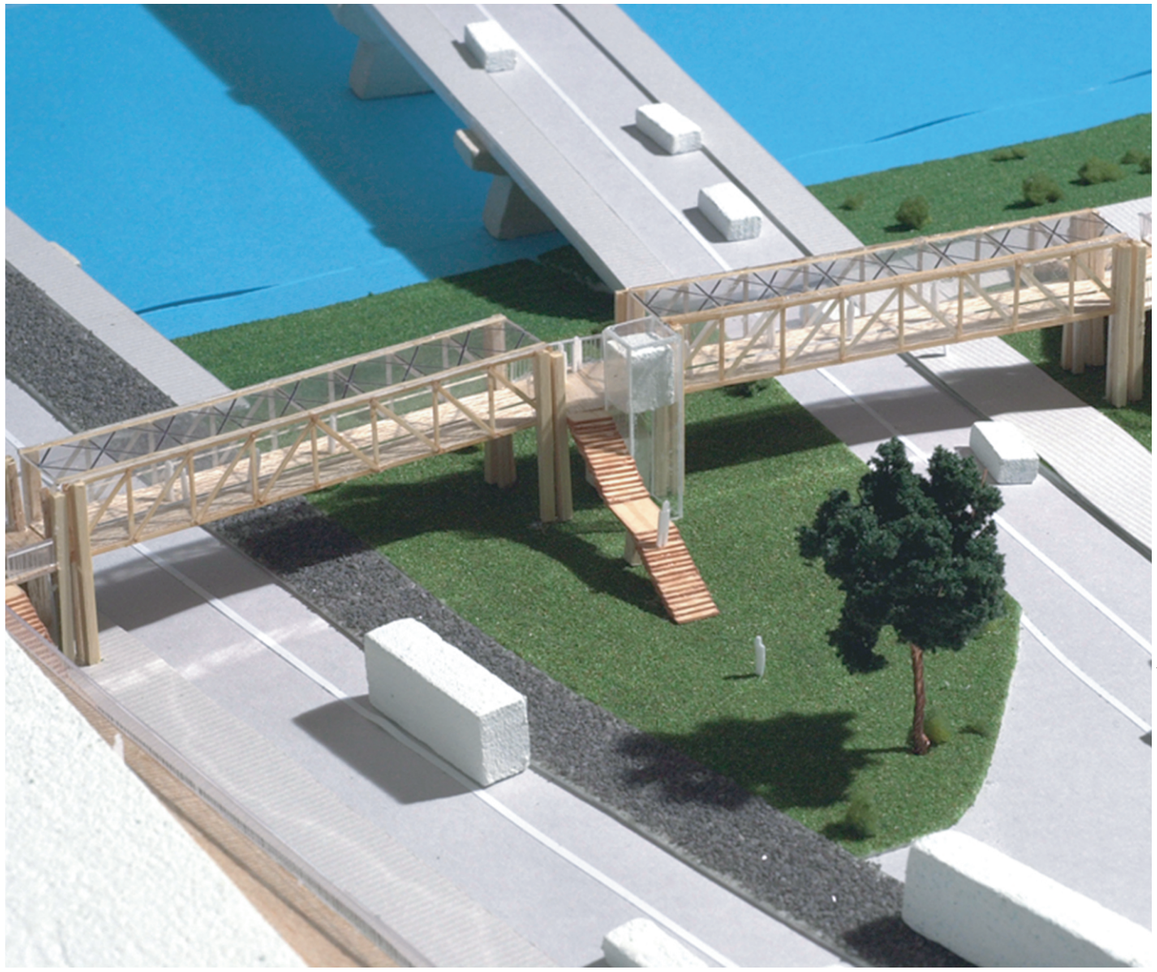
設計範囲

本プロジェクトは高知市葛島に現存する歩道橋の架け替えを提案するものである。

架け替えの際には、都市周辺の環境整備を行い、隣接する施設や河川などとの関連性を高めて橋梁と周辺環境を結合し、新たな都市空間を創造する。また、高知市のゲート的な印象を与えるべくシンボリックな橋として、長大なペデストリアンブリッジを設け、橋としての機能面以外にも、まちとまちとの境界としてめりはりをつける大スケールのものとした。

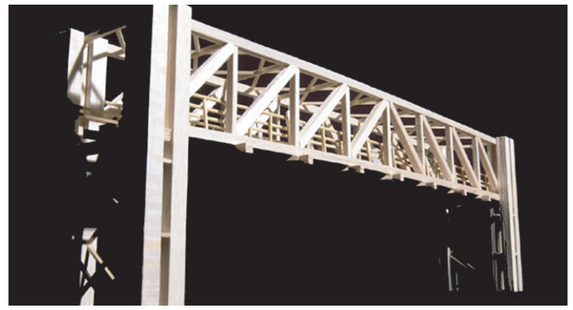
橋梁のコンセプトとして、県産の木材を用いた。

都市空間を構成する小風景の中に、木製の長大構造物を挿入する事で、独特な個性と豪快さを与え、利用者に新しい感動を提供する。木材はその材質として、長い歴史に渡って人を和ませる複合的な意味合いを持つが、その反面耐久性や、メンテナンスの面で他の素材に劣ることも否めない。多少のギャップを背負いつつも、技術的革新に支えられ、主要部材として、また素材自体の旧来的な意味を込めて木橋を提案する。

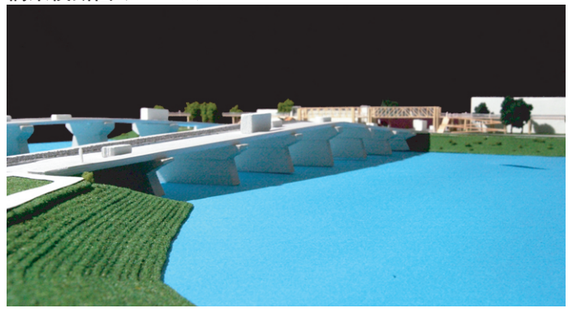


メインスパン

橋梁横断面のパース

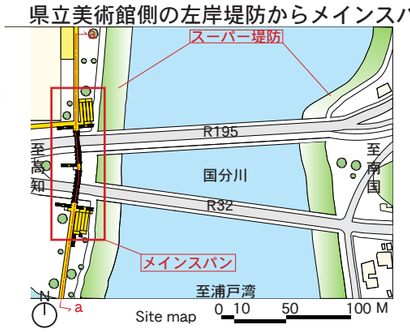


橋梁斜下からのパース



県立美術館側の左岸堤防からメインスパンを望む

右岸のスーパー堤防からメインスパンを望む



交通

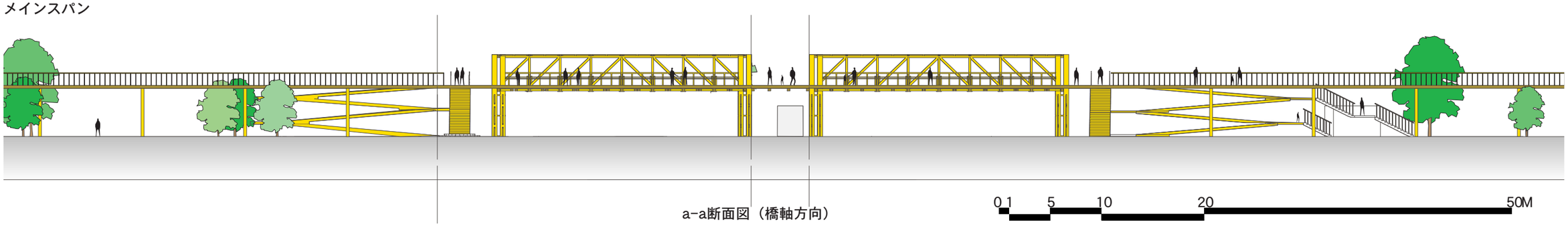
現場周辺はR195とR32と土佐電鉄等が交錯する、交通渋滞の頻度が高い場所である。この問題の改善の為に交差点の数を減少させ、この地点より先の南国市で車交通の合流・分流を行う事にした。

堤防

現況のカミソリ堤防に替えて、スーパー堤防を用い、親水の機会を与える。

眺望の場としての橋

国分川右岸の堤防沿いに位置する。川をはさんで対岸へ五台山や、県立美術館、及び、舟入川との合流地点に対してひらけており、視点場となりえる。



a-a断面図（橋軸方向）

0 1 5 10 20 50M